平成27年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	主要市道整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	2	3	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	道路河川整備課			
施策	321安全でゆとりある道路の整備	担当課室長	鎗田　淳			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	事業費を拡大するため、国の交付金の導入を積極的に図る。	③平成27年度に取組む改革・改善内容	事業量を拡大するため、国の交付金の導入を積極的に図る。
②①に基づく取組み結果	社会資本整備総合交付金を導入した。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	主要市道	意図（対象をどうするのか）	測量、設計、用地補償、工事を行う。
②事務事業の概要	安全で快適な道路網整備のため、主要市道における歩道の整備、危険箇所の線形改良、排水整備、舗装改良を実施し、歩行者等の安全と交通の円滑化を図る。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	事業開始前は、主要市道でも歩道が無く交通量に見合った幅員や舗装となっていなかった。住民の要望が満足となるよう本事業を推進する。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成26年度の事業の成果	主要市道の舗装改良及び排水整備を行った。 （1）市道37号線舗装改良工事（L=136m）、（2）市道51号線舗装改良工事（L=208m）

②成果を表す指標		指標名称	平成24年度	平成25年度	平成26年度	単位	算定根拠
	i	工事延長	59	1,318	1,617	m	業務取得
	ii	工事延長【平成23年度から累計】	429	1,747	3,364	m	業務取得
	iii	「道路の状況」不満足度	―	66.4	―	%	市民意識調査

③事務事業のコスト		平成25年度決算	平成26年度決算	平成26年度決算（事業費）の主な内訳		平成27年度予算
事業費（千円）		94,901	176,703	金額（千円）	内容	258,982
	国支出金（千円）	19,067	14,072	19,205	市道37号線舗装改良工事	110,748
	県支出金（千円）			18,360	市道51号線舗装改良工事	
	市債その他（千円）		127,700			66,800
	一般財源（千円）	75,834	34,931			81,434

Ⅳ　評価・検討

①課題（目的に対する現状など）	市の主要な道路でも、歩道が無い箇所や狭い箇所が多く、交通量に見合った幅員や舗装構成になっていない。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	市民意識調査の「道路の状況」不満足度を下げるため、主要市道の整備は不可欠である。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		平成26年度事業費の状況（単位；千円）					
①平成26年度の計画	市道2号線舗装改良工事他11路線	計画事業費	予算額			決算額	
②計画に対する事業実績	市道2号線舗装改良工事他11路線	217,546	243,246	当初	190,205	176,703	H25からの繰越 23,597
③達成状況	未完了			H25⇒26繰越	25,700		
④未完了・非着手の理由	県水道局工事と競合し調整に不測の時間を要したため等により繰越ししたため。			補正	27,341		現年分 153,106
				流用・充当			
		平成27年度への繰越額（単位；千円）	59,438				

平成27年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	一般市道整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	2	3	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	道路河川整備課			
施策	321安全でゆとりある道路の整備	担当課室長	鎗田　淳			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	市民のニーズに対応すべく、道路整備の更なる拡大とコスト縮減のための整備手法の更なる検討。	③平成27年度に取組む改革・改善内容	コスト縮減のための整備手法の更なる検討。
②①に基づく取組み結果	設計比較及び再生材を使用してコスト縮減を図った。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	一般市道	意図（対象をどうするのか）	安全でゆとりのある道路に整備する。
②事務事業の概要	道路整備による地域環境の向上のため、道路排水施設の整備、舗装新設、狭あい路線の拡幅を行い地域住民の利便性と生活環境の向上を図る。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	生活道路となる一般市道が未整備で、舗装整備や道路排水整備の必要があった。住民の要望が満足となるよう本事業を推進する。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成26年度の事業の成果：舗装改良及び道路排水施設としての側溝の整備を行った。
（1）市道3308号線排水整備工事（L=94.3m）（2）市道4517号線舗装改良工事（L=503m）、

②成果を表す指標		指標名称	平成24年度	平成25年度	平成26年度	単位	算定根拠
	i	工事延長	106	1,009	1,157	m	業務取得
	ii	工事延長【平成23年度から累計】	288	1,297	2,454	m	業務取得
	iii	「道路の状況」不満足度	―	66.4	―	%	市民意識調査

③事務事業のコスト		平成25年度決算	平成26年度決算	平成26年度決算（事業費）の主な内訳		平成27年度予算
事業費（千円）		32,628	43,814	金額（千円）	内容	35,000
	国支出金（千円）	5,231		9,573	市道3308号線排水整備工事	
	県支出金（千円）			15,596	市道4517号線舗装改良工事	
	市債その他（千円）					
	一般財源（千円）	27,397	43,814			35,000

Ⅳ　評価・検討

①課題（目的に対する現状など）	道路排水施設の未整備箇所、舗装の不良箇所が多い。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	市民意識調査の「道路の状況」不満足度を下げるため、一般市道の整備は不可欠である。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		平成26年度事業費の状況（単位；千円）					
①平成26年度の計画	舗装等整備	計画事業費	予算額			決算額	
②計画に対する事業実績	市道4517号線舗装改良工事他8路線	42,750	45,364	当初	42,750	43,814	H25からの繰越 2,614
③達成状況	完了			H25⇒26繰越	2,614		現年分 41,200
④未完了・非着手の理由				補正			
				流用・充当			
		平成27年度への繰越額（単位；千円）					

平成27年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	私道整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	2	3	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	道路河川整備課			
施策	321安全でゆとりある道路の整備	担当課室長	鎗田　淳			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	市民のニーズに対応すべく、コスト縮減のための整備手法の更なる検討。	③平成27年度に取組む改革・改善内容	私道舗装整備要綱の見直しを図る。
②①に基づく取組み結果	私道整備の舗装構成を一般市道整備の舗装構成よりも簡易的なものとし、コストの縮減を図った。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	私道	意図（対象をどうするのか）	舗装整備工事を行う。
②事務事業の概要	道路整備による地域環境の向上のため、未舗装私道の舗装を推進し地域住民の利便性と生活環境の向上を図る。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	事業開始当初は多くの私道が未舗装で日々の生活や環境・衛生面に悪影響を及ぼしていたが、本事業の推進により未舗装区間が少なくなってきた。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成26年度の事業の成果：鎌ケ谷市私道舗装整備要綱に基づき、整備要件の整った私道について舗装を実施した。（1）私道舗装整備事業（1組合）（L=50m）

②成果を表す指標

	指標名称	平成24年度	平成25年度	平成26年度	単位	算定根拠
i	工事延長	236	103	50	m	業務取得
ii	工事延長【平成23年度から累計】	746	849	898	m	業務取得
iii	「道路の状況」不満足度	―	66.4	―	%	市民意識調査

③事務事業のコスト

	平成25年度決算	平成26年度決算	平成26年度決算（事業費）の主な内訳 金額（千円）	内容	平成27年度予算
事業費（千円）	2,537	1,188			4,480
国支出金（千円）			1,188	私道舗装整備工事	
県支出金（千円）					
市債その他（千円）					
一般財源（千円）	2,537	1,188			4,480

Ⅳ　評価・検討

①課題（目的に対する現状など）：私道舗装整備要綱の要件を満たす件数が少なくなってきている。

②評価

i 市関与の妥当性	2普通	iii 公平性	2普通	v 総合評価	6精査・検証
ii 有効性	2普通	iv 効率性	2普通		

③上記評価の理由：市道整備の要望が多数あり、私道整備と市道整備のバランスを取る必要があるため、精査していく。

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		平成26年度事業費の状況（単位；千円）					
①平成26年度の計画	私道舗装整備	計画事業費	予算額			決算額	
②計画に対する事業実績	私道舗装整備工事（道路管理組合1件）	1,500	1,500	当初	1,500	1,188	H25からの繰越
③達成状況	完了			H25⇒26繰越			
④未完了・非着手の理由				補正			現年分 1,188
				流用・充当			
		平成27年度への繰越額（単位；千円）					

平成27年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	通学路整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	2	3	○
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	道路河川整備課			
施策	133児童・生徒の健康と安全の確保	担当課室長	鎗田　淳			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	市道1号線の予備設計及び市道12号線の用地補償を推進する。	③平成27年度に取組む改革・改善内容	事業量を拡大するため、国の交付金の導入を積極的に図る。
②①に基づく取組み結果	市道1号線の予備設計及び市道12号線の用地補償を推進した。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	小中学校の児童生徒及び通学路	意図（対象をどうするのか）	児童生徒が安全に登下校できるようにする。
②事務事業の概要	児童・生徒が安全に通学できるよう、歩道のない通学路に歩道を整備し、登下校における安全性の向上を図る。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	通学路の拡幅や歩道確保をすることで、登下校時の通学路における児童生徒の安全を図る。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成26年度の事業の成果	市道１号線の予備設計と市道１２号線の用地取得を実施した。 （1）市道1号線予備設計委託（L=800m）、（2）市道12号線用地買収（A=319㎡）

②成果を表す指標		指標名称	平成24年度	平成25年度	平成26年度	単位	算定根拠
	i	学校災害件数の割合	7.1	6.5	6.1	%	業務取得
	ii	事業費【平成24年度からの累計】	2,258	9,414	21,858	千円	決算書
	iii	工事延長【累計】	0	0	0	m	業務取得

③事務事業のコスト	平成25年度決算	平成26年度決算	平成26年度決算（事業費）の主な内訳		平成27年度予算
事業費（千円）	7,157	12,444	金額（千円）	内容	32,000
国支出金（千円）		1,760	3,348	市道1号線予備設計委託	13,200
県支出金（千円）			6,315	市道12号線用地買収	
市債その他（千円）					9,700
一般財源（千円）	7,157	10,684			9,100

Ⅳ　評価・検討

①課題（目的に対する現状など）	道路の拡幅等中長期的な時間を要する要望に対しては、まずは代替的な対策で対応せざるを得ない。					
②評価	ⅰ市関与の妥当性	3高い	ⅲ公平性	2普通	ⅴ総合評価	7拡充
	ⅱ有効性	3高い	ⅳ効率性	3高い		
③上記評価の理由	多数の地権者と交渉し用地補償・工事を進める必要性がある。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		平成26年度事業費の状況（単位；千円）					
①平成26年度の計画	市道1号線予備設計委託、用地買収、物件補償	計画事業費	予算額			決算額	
②計画に対する事業実績	市道1号線予備設計委託、用地買収、物件補償	15,734	15,734	当初	11,205	12,444	H25からの繰越
③達成状況	完了			H25⇒26繰越			
④未完了・非着手の理由				補正	4,529		現年分　12,444
				流用・充当			
		平成27年度への繰越額（単位；千円）					

平成27年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	河川・水路整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	3	3	○
政策	22快適な暮らしの環境をつくります	担当課室	道路河川整備課			
施策	223うるおいある河川・水路の整備	担当課室長	鎗田　淳			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	整備時期は未定であるが、整備の目安がついた段階で、整備方針等の検討を行う。	③平成27年度に取組む改革・改善内容	整備時期は未定であるが、整備の目安がついた段階で、整備方針等の検討を行う。
②①に基づく取組み結果	整備の目安がついていないため、整備方針等の検討は行えなかった。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	①主要な水路 ②その他の水路	意図（対象をどうするのか）	浸水被害の軽減 隣接家屋等の安全性確保
②事務事業の概要		下流の状況を考慮し、段階的な整備を行う。 ①流末としての施設の確保及び流下能力の向上等を目的とした暫定改修を行う。 ②上流域の流末としての機能確保のため50mm/hrの降雨に対応した改修を行う。		
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）		急激な都市化の進展により、雨水の流出量が増加し、河川の施設能力を超えるようになった。今後下流の整備が進むと、市域の河川施設の将来形での整備が可能となる。依然として浸水被害はあり、苦情や要望が多い。		

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成26年度の事業の成果	・紙敷川改修事業として、L＝130.0mの河川整備を松戸市主体により実施した。

②成果を表す指標		指標名称	平成24年度	平成25年度	平成26年度	単位	算定根拠
	i	主要な水路の暫定改修実施率	6.50	6.50	6.50	%	業務取得
	ii	主要な水路の50mm/hr改修実施率	2.60	2.60	2.60	%	業務取得
	iii	浸水面積（河川水路）	31.9	31.9	31.9	ha	業務取得

③事務事業のコスト		平成25年度決算	平成26年度決算	平成26年度決算（事業費）の主な内訳		平成27年度予算
事業費（千円）		11,893	3,892	金額（千円）	内容	9,910
	国支出金（千円）			3,892	紙敷川改修事業負担金	
	県支出金（千円）					
	市債その他（千円）					
	一般財源（千円）	11,893	3,892			9,910

Ⅳ　評価・検討

①課題（目的に対する現状など）	整備の目安がついていないため、整備方針等の検討に取り組めない。					
②評価	ⅰ市関与の妥当性	3高い	ⅲ公平性	3高い	ⅴ総合評価	6精査・検証
	ⅱ有効性	3高い	ⅳ効率性	3高い		
③上記評価の理由	将来形を見据えた暫定的な整備を行うしかない現状では、将来の整備に後戻りの無いよう効果的な手法の検討を行う。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		平成26年度事業費の状況（単位；千円）					
①平成26年度の計画	・紙敷川改修負担金 ・金山落水路用地	計画事業費	予算額			決算額	
②計画に対する事業実績	・紙敷川改修負担金支払い済	10,903	10,903	当初	10,903	3,892	H25からの繰越 0
③達成状況	未完了			H25⇒26繰越	0		現年分 3,892
④未完了・非着手の理由	金山落については、用地取得方法の決定に至らなかったため、着手出来なかった。			補正	0		
				流用・充当	0		
		平成27年度への繰越額（単位；千円）		0			

平成27年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	準用河川整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	3	3	○
政策	22快適な暮らしの環境をつくります	担当課室	道路河川整備課			
施策	223うるおいある河川・水路の整備	担当課室長	鎗田　淳			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	浸水被害の軽減のため、整備は現時点で可能な最も効果のある箇所の選定を行う。	③平成27年度に取組む改革・改善内容	浸水被害の軽減のため、整備は現時点で可能な最も効果のある箇所の選定を行う。
②①に基づく取組み結果	浸水被害の軽減を図るため、道路冠水や浸水被害等のデータを基に予算の範囲内で整備可能かつ効果のある箇所について選定した。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	準用河川	意図（対象をどうするのか）	浸水被害の軽減 隣接家屋等の安全性確保
②事務事業の概要	計画の策定を行い、上下流の状況を考慮し段階的な河川の改修を行う。 ①流下能力の向上と護岸の保護を目的とした暫定改修を行う。 ②50mm/hrの降雨に対応した改修を行う。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	急激な都市化の進展により、雨水の流出量が増加し、河川の施設能力を超えるようになった。今後下流の整備が進むと、市域の河川施設の将来形での整備が可能となる。依然として浸水被害はあり、苦情や要望が多い。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成26年度の事業の成果	二和川護岸改修第28期工事L＝108．7mを完了した。

②成果を表す指標		指標名称	平成24年度	平成25年度	平成26年度	単位	算定根拠
	i	暫定改修実施率	16.40	18.61	19.73	%	業務取得
	ii	50mm/hr改修実施率	11.42	11.42	11.42	%	業務取得
	iii	浸水面積（1級河川、準用河川）	82.0	81.5	81.5	ha	業務取得

③事務事業のコスト	平成25年度決算	平成26年度決算	平成26年度決算（事業費）の主な内訳		平成27年度予算
事業費（千円）	49,258	31,059	金額（千円）	内容	148,254
国支出金（千円）			7,018	二和川整備に伴う地質調査委託	
県支出金（千円）			5,147	二和川河川整備測量委託	
市債その他（千円）	32,300		1,112	二和川第29期事前調査	35,100
一般財源（千円）	16,958	31,059	16,452	二和川護岸改修28期工事	113,154

Ⅳ　評価・検討

①課題（目的に対する現状など）	河川改修は下流から行うのが原則であるため、整備は現時点で可能な最も効果のある箇所を選定し、将来の整備に後戻り無いようにしなければならない。					
②評価	ⅰ市関与の妥当性	3高い	ⅲ公平性	3高い	ⅴ総合評価	6精査・検証
	ⅱ有効性	3高い	ⅳ効率性	3高い		
③上記評価の理由	将来形を見据えた暫定的な整備を行うしかない現状では、将来の整備に後戻りの無いよう効果的な手法の検討を行う。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		平成26年度事業費の状況（単位；千円）					
①平成26年度の計画	二和川護岸改修工事、二和川整備設計・工事	計画事業費	予算額			決算額	
②計画に対する事業実績	二和川護岸改修第28期工事を完了した。	105,885	122,337	当初	88,895	31,059	H25からの繰越 16,452
				H25⇒26繰越	16,452		
③達成状況	未完了			補正	16,990		現年分 14,607
④未完了・非着手の理由	二和川整備設計は、H27へ繰り越したため。			流用・充当	0		
		平成27年度への繰越額（単位；千円）		70,784			

平成27年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	地域排水整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	3	3	○
政策	22快適な暮らしの環境をつくります	担当課室	道路河川整備課			
施策	223うるおいある河川・水路の整備	担当課室長	鎗田　淳			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	浸水被害の軽減のため、整備は現時点で可能な最も効果のある箇所の選定を行う。	③平成27年度に取組む改革・改善内容	浸水被害の軽減のため、整備は現時点で可能な最も効果のある箇所の選定を行う。
②①に基づく取組み結果	浸水被害の軽減を図るため、道路冠水や浸水被害等のデータを基に整備可能かつ効果のある箇所について選定した。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	地域排水施設	意図（対象をどうするのか）	浸水被害の軽減
②事務事業の概要	浸水被害の直接的な原因が地域排水施設の能力不足や未整備であるものについて、下流への影響を考慮しつつ、河川・水路までの施設整備を行う。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	急激な都市化の進展により、雨水の流出量が増加し、河川の施設能力を超えるようになった。今後下流の整備が進むと、市域の河川施設の将来形での整備が可能となる。依然として浸水被害はあり、苦情や要望が多い。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成26年度の事業の成果	丸山一丁目地区地域排水整備工事では、185m^{3}の地下浸透貯留施設を設置した。鎌ケ谷二丁目地区排水管改修工事では、管渠内被膜ライニングを15m整備した。

②成果を表す指標		指標名称	平成24年度	平成25年度	平成26年度	単位	算定根拠
	i	整備工事完了・着手箇所数	16	18	20	箇所	業務取得
	ii	浸水面積（地域排水）	11.2	11.1	11.1	ha	業務取得
	iii	浸透桝設置基数	6,263	6,411	6,587	基	業務取得

③事務事業のコスト		平成25年度決算	平成26年度決算	平成26年度決算（事業費）の主な内訳		平成27年度予算
事業費（千円）		42,499	35,509	金額（千円）	内容	57,065
	国支出金（千円）			3,996	初富字五本松基本設計委託	
	県支出金（千円）			3,444	鎌ケ谷二丁目実施設計委託	
	市債その他（千円）		10,500	14,040	丸山一丁目地区排水整備工事	29,200
	一般財源（千円）	42,499	25,009	6,039	鎌ケ谷二丁目排水管改修工事	27,865

Ⅳ　評価・検討

①課題（目的に対する現状など）	浸水被害の軽減を図るため、道路冠水や浸水被害等のデータを基に整備可能かつ効果のある場所を選定しなければならない。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	将来形を見据えた暫定的な整備を行うしかない現状では、将来の整備に後戻りの無いよう効果的な手法の検討を行う。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		平成26年度事業費の状況（単位；千円）						
①平成26年度の計画	浸透桝モニター、鎌ケ谷二丁目地区排水整備工事、初富古桜地区排水整備工事、道野辺中央5丁目地域排水整備委託、初富五本松排水整備委託、丸山一丁目地区排水整備工事	計画事業費	予算額			決算額		
②計画に対する事業実績	浸透桝モニター、鎌ケ谷二丁目地域排水整備工事、初富五本松排水整備委託、丸山一丁目地区排水整備工事を完了した。	34,271	45,180	当初	19,271	35,509	H25からの繰越	9,112
				H25⇒26繰越	10,637			
③達成状況	未完了			補正	15,000		現年分	26,397
④未完了・非着手の理由	初富字古桜地区排水整備工事は、地権者との交渉が難航したため非着手となった。道野辺中央5丁目地域排水整備委託は、H27に繰越したため。			流用・充当	272			
		平成27年度への繰越額（単位；千円）		5,508				

平成27年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	雨水貯留池整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	3	3	○
政策	22快適な暮らしの環境をつくります	担当課室	道路河川整備課			
施策	223うるおいある河川・水路の整備	担当課室長	鎗田　淳			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	浸水被害の軽減のため、整備は現時点で可能な最も効果のある箇所の選定を行う。	③平成27年度に取組む改革・改善内容	浸水被害の軽減のため、整備は現時点で可能な最も効果のある箇所の選定を行う。
②①に基づく取組み結果	浸水被害の軽減を図るため、道路冠水や浸水被害等のデータを基に整備可能かつ効果のある箇所について選定した。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	雨水貯留池	意図（対象をどうするのか）	河川の流量の調整を行う。 雨水の流出を抑制する。
②事務事業の概要	浸水被害の軽減に必要な河川調節池の整備と流出抑制を目的とした貯留池の整備を行う。整備にあたっては、河川の整備計画との整合を図る。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	急激な都市化の進展により、雨水の流出量が増加し、河川の施設能力を超えるようになった。今後下流の整備が進むと、市域の河川施設の将来形での整備が可能となる。依然として浸水被害はあり、苦情や要望が多い。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成26年度の事業の成果	・南初富２丁目貯留池整備事業に伴う用地測量等を実施した。・串崎新田貯留池整備事業に伴う用地測量を実施した。・南初富５丁目貯留池整備工事を実施した。・串崎新田貯留池暫定整備工事を実施した。

②成果を表す指標

	指標名称	平成24年度	平成25年度	平成26年度	単位	算定根拠
i	河川調節池の暫定整備率	85.71	85.71	85.71	%	業務取得
ii	河川調節池の整備率	57.14	57.14	57.14	%	業務取得
iii	貯留量	37,480	37,480	40,421	m3	業務取得

③事務事業のコスト

	平成25年度決算	平成26年度決算	平成26年度決算（事業費）の主な内訳		平成27年度予算
事業費（千円）	68,339	235,952	金額（千円）	内容	39,032
国支出金（千円）		45,480	160,727	南初富５丁目貯留池整備工事	
県支出金（千円）			16,614	串崎新田貯留池暫定整備工事	
市債その他（千円）		134,200	52,931	南初富２丁目貯留池整備事業に伴う用地購入	26,200
一般財源（千円）	68,339	56,272			12,832

Ⅳ　評価・検討

①課題（目的に対する現状など）	浸水被害の軽減を図るため、道路冠水や浸水被害等のデータを基に整備可能かつ効果のある場所を選定しなければならない。					
②評価	ⅰ市関与の妥当性	3高い	ⅲ公平性	3高い	ⅴ総合評価	7拡充
	ⅱ有効性	3高い	ⅳ効率性	3高い		
③上記評価の理由	浸水被害の軽減を図るには、下流の整備が進んでいない現状では、貯留池を整備することが最善策と考えられるため、より一層の整備を進める。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		平成26年度事業費の状況（単位；千円）						
①平成26年度の計画	南初富５丁目貯留池（工事）、南初富２丁目貯留池（用地購入）、串崎新田貯留池（工事）	計画事業費	予算額			決算額		
②計画に対する事業実績	南初富５丁目貯留池（工事）、南初富２丁目貯留池（用地購入）、串崎新田貯留池（工事）それぞれ実施。	246,730	246,458	当初	163,770	235,952	H25からの繰越	0
				H25⇒26繰越	0			
③達成状況	完了			補正	82,960		現年分	235,952
④未完了・非着手の理由				流用・充当	−272			
		平成27年度への繰越額（単位；千円）			0			

平成27年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	都市計画道路3・4・5号船橋我孫子バイパス線整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	3	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	道路河川整備課			
施策	321安全でゆとりある道路の整備	担当課室長	鎗田　淳			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	事業主体である千葉県と連携を図るとともに、必要な財源の確保を図る。	③平成27年度に取組む改革・改善内容	境界が確定となるよう、事業主体である千葉県と連携を図る。
②①に基づく取組み結果	用地の取得にあたり、事業主体の千葉県と連携し、事業の進捗を図った。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	都市計画道路3・4・5号線	意図（対象をどうするのか）	整備することで交通の利便性を向上させる。
②事務事業の概要	事業主体である千葉県に対し、地元負担金を支払う。事業延長280m、幅員18m、用地面積4,220㎡、事業認可平成13年12月10日～平成31年3月31日。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	南初富区間から新鎌ケ谷地区まで供用開始したことにより、県道船橋我孫子線のバイパスとしての機能を発揮することが求められている。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成26年度の事業の成果：県土地開発公社による先行取得のため、地元負担金の支出は無かった。

②成果を表す指標

	指標名称	平成24年度	平成25年度	平成26年度	単位	算定根拠
i	都市計画道路整備延長	12,169	12,169	12,169	m	業務取得
ii	都市計画道路整備率	33	33	33	%	業務取得
iii	「道路の状況」不満足度	―	66.4	―	%	市民意識調査

③事務事業のコスト

	平成25年度決算	平成26年度決算	平成26年度決算（事業費）の主な内訳 金額（千円）	内容	平成27年度予算
事業費（千円）	10,005	0			3,000
国支出金（千円）					
県支出金（千円）					
市債その他（千円）					
一般財源（千円）	10,005	0			3,000

Ⅳ　評価・検討

①課題（目的に対する現状など）：境界が未確定の箇所があり、事業用地を取得できない。

②評価

i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		

③上記評価の理由：機能的な道路ネットワークの構築や利用者の利便性・安全性の向上を図るべく道路の完成を目指す必要性がある。

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		平成26年度事業費の状況（単位；千円）					
①平成26年度の計画	地元負担金	計画事業費	予算額			決算額	
②計画に対する事業実績	県土地開発公社による先行取得のため、地元負担金の支出は無かった。	3,000	3,000	当初	3,000	0	H25からの繰越
				H25⇒26繰越			
③達成状況	完了			補正			現年分 0
④未完了・非着手の理由				流用・充当			
		平成27年度への繰越額（単位；千円）					

平成27年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	新京成線連続立体交差事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	3	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	道路河川整備課			
施策	321安全でゆとりある道路の整備	担当課室長	鎗田　淳			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	事業の進捗を図るため、事業主体である千葉県及び関係機関と調整するとともに、必要な財源の確保を図る。	③平成27年度に取組む改革・改善内容	事業の進捗を図るため、事業主体である千葉県及び関係機関と調整するとともに、必要な財源の確保を図る。
②①に基づく取組み結果	事業主体である千葉県及び関係機関と調整行い、必要な財源の確保を図った。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	新京成線高架橋	意図（対象をどうするのか）	関係機関調整し、高架を実現させる（地元負担金を支払う）。
②事務事業の概要	本市の東西を走る新京成線を高架化し、踏切遮断による交通渋滞や市街地の分断等を解消する目的で、県が事業主体となり事業を施行する。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	新京成線の踏切遮断による交通渋滞、踏切事故や都市の安全性、快適性に遅れが生じていることにより、踏切を早く除却するように求められている。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成26年度の事業の成果	初富駅と北初富駅の仮駅での運行開始。全区間仮線に切り替え、高架橋築造工事を実施した。

②成果を表す指標		指標名称	平成24年度	平成25年度	平成26年度	単位	算定根拠
	i	用地取得率(取得済/用地面積)	97	100	100	%	業務取得
	ii	事業進捗率（事業費ベース）	53	65	77	%	業務取得
	iii	鉄道駅乗降客数(1日当たり)	189,701	190,011	調査中	人	統計かまがや

③事務事業のコスト		平成25年度決算	平成26年度決算	平成26年度決算（事業費）の主な内訳		平成27年度予算
事業費（千円）		670,533	613,444	金額（千円）	内容	608,326
	国支出金（千円）			613,444	県事業への負担金	
	県支出金（千円）					
	市債その他（千円）	641,100	552,300			524,900
	一般財源（千円）	29,433	61,144			83,426

Ⅳ　評価・検討

①課題（目的に対する現状など）	踏切により交通渋滞が多く、市街地が分断されている。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	市民から早期完成が求められているため。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		平成26年度事業費の状況（単位；千円）					
①平成26年度の計画	負担金支出	計画事業費	予算額			決算額	
②計画に対する事業実績	県に負担金を支出した。	387,537	650,871	当初	761,718	613,444	H25からの繰越 229,500
③達成状況	完了			H25⇒26繰越	263,334		
④未完了・非着手の理由				補正	▲ 374,181		現年分 383,944
				流用・充当			
		平成27年度への繰越額（単位；千円）					

平成27年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	都市計画道路3・3・16号新鎌ケ谷南線整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	3	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	道路河川整備課			
施策	321安全でゆとりある道路の整備	担当課室長	鎗田　淳			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	事業認可の取得に向けて予備設計を行い、事業の拡充を図る。	③平成27年度に取組む改革・改善内容	事業認可を取得し、地元説明会を実施し、事業に着手する。
②①に基づく取組み結果	予備設計に着手した。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	都市計画道路3・3・16号線	意図（対象をどうするのか）	測量、設計、用地補償、工事を行い、道路整備を図る。
②事務事業の概要	当該都市計画道路の整備により、新鎌ケ谷地区内の発生集中交通を円滑に処理する。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	新鎌ケ谷特定土地区画整理事業により交通の発生集中が生じていることから、平成25年度から本事業を開始した。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成26年度の事業の成果	予備設計に着手した。（平成27年度への繰越有）

②成果を表す指標		指標名称	平成24年度	平成25年度	平成26年度	単位	算定根拠
	i	都市計画道路整備延長	12,169	12,169	12,169	m	業務取得
	ii	都市計画道路整備率	33	33	33	%	業務取得
	iii	「道路の状況」不満足度	―	66.4	―	%	市民意識調査

③事務事業のコスト	平成25年度決算	平成26年度決算	平成26年度決算（事業費）の主な内訳		平成27年度予算
事業費（千円）	2,998	0	金額（千円）	内容	35,080
国支出金（千円）					
県支出金（千円）					
市債その他（千円）					29,633
一般財源（千円）	2,998	0			5,447

Ⅳ　評価・検討

①課題（目的に対する現状など）	新鎌ケ谷地区周辺には東西にアクセスする道路がないため、通過交通が生活道路を通り、安全性に欠けている。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	新鎌ケ谷地区と市域西部地区の接続や道路利用者の安全性や利便性の向上を図る必要性がある。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		平成26年度事業費の状況（単位；千円）					
①平成26年度の計画	予備設計図書作成。	計画事業費	予算額			決算額	
②計画に対する事業実績	予備設計委託に着手した。	3,000	3,000	当初	3,000	0	H25からの繰越
③達成状況	未完了			H25⇒26繰越			
④未完了・非着手の理由	予備設計について県の関係機関との協議に不測の時間を要したため。			補正			現年分　0
				流用・充当			
		平成27年度への繰越額（単位；千円）	1,746				

平成27年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	都市計画道路3・4・10号中沢北初富線整備事業（新鎌ケ谷）	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	3	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	道路河川整備課			
施策	321安全でゆとりある道路の整備	担当課室長	鎗田　淳			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	事業認可の取得に向けて予備設計を行い、事業の拡充を図る。	③平成27年度に取組む改革・改善内容	事業認可を取得し、地元説明会を実施し、事業に着手する。
②①に基づく取組み結果	予備設計に着手した。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	都市計画道路3・4・10号線	意図（対象をどうするのか）	測量、設計、用地補償、工事を行い、道路整備を図る。
②事務事業の概要	当該都市計画道路の整備により、新鎌ケ谷地区内の発生集中交通を円滑に処理する。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	新鎌ケ谷特定土地区画整理事業により交通の発生集中が生じていることから、平成25年度から本事業を開始した。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成26年度の事業の成果	予備設計に着手した。（平成27年度への繰越有）

②成果を表す指標		指標名称	平成24年度	平成25年度	平成26年度	単位	算定根拠
	i	都市計画道路整備延長	12,169	12,169	12,169	m	業務取得
	ii	都市計画道路整備率	33	33	33	%	業務取得
	iii	「道路の状況」不満足度	―	66.4	―	%	市民意識調査

③事務事業のコスト		平成25年度決算	平成26年度決算	平成26年度決算（事業費）の主な内訳		平成27年度予算
事業費（千円）		2,998	0	金額（千円）	内容	35,080
	国支出金（千円）					
	県支出金（千円）					
	市債その他（千円）					29,633
	一般財源（千円）	2,998	0			5,447

Ⅳ　評価・検討

①課題（目的に対する現状など）	新鎌ケ谷地区周辺には東西にアクセスする道路がないため、通過交通が生活道路を通り、安全性に欠けている。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	新鎌ケ谷地区と市域西部地区の接続や道路利用者の安全性や利便性の向上を図る必要性がある。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		平成26年度事業費の状況（単位；千円）					
①平成26年度の計画	予備設計図書作成。	計画事業費	予算額			決算額	
②計画に対する事業実績	予備設計委託に着手した。	3,000	3,000	当初	3,000	0	H25からの繰越
③達成状況	未完了			H25⇒26繰越			
④未完了・非着手の理由	予備設計について県の関係機関との協議に不測の時間を要したため。			補正			現年分　0
				流用・充当			
		平成27年度への繰越額（単位；千円）	1,746				

平成27年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	都市計画道路3・4・10号中沢北初富線整備事業（交差部）	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	3	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	道路河川整備課			
施策	321安全でゆとりある道路の整備	担当課室長	鎗田　淳			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	事業認可の取得に向けて予備設計を行い、事業の拡充を図る。	③平成27年度に取組む改革・改善内容	事業認可を取得し、地元説明会を実施し、事業に着手する。
②①に基づく取組み結果	予備設計に着手した。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	都市計画道路3・4・10号線	意図（対象をどうするのか）	測量、設計、用地補償、工事を行い、道路整備を図る。
②事務事業の概要	当該都市計画道路の整備により、新鎌ケ谷地区内の発生集中交通を円滑に処理する。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	新鎌ケ谷特定土地区画整理事業により交通の発生集中が生じていることから、平成25年度から本事業を開始した。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成26年度の事業の成果	予備設計に着手した。（平成27年度への繰越有）

②成果を表す指標		指標名称	平成24年度	平成25年度	平成26年度	単位	算定根拠
	i	都市計画道路整備延長	12,169	12,169	12,169	m	業務取得
	ii	都市計画道路整備率	33	33	33	%	業務取得
	iii	「道路の状況」不満足度	―	66.4	―	%	市民意識調査

③事務事業のコスト	平成25年度決算	平成26年度決算	平成26年度決算（事業費）の主な内訳		平成27年度予算
事業費（千円）	2,998	0	金額（千円）	内容	35,080
国支出金（千円）					
県支出金（千円）					
市債その他（千円）					29,633
一般財源（千円）	2,998	0			5,447

Ⅳ　評価・検討

①課題（目的に対する現状など）	新鎌ケ谷地区周辺には東西にアクセスする道路がないため、通過交通が生活道路を通り、安全性に欠けている。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	新鎌ケ谷地区と市域西部地区の接続や道路利用者の安全性や利便性の向上を図る必要性がある。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		平成26年度事業費の状況（単位；千円）					
①平成26年度の計画	予備設計図書作成。	計画事業費	予算額			決算額	
②計画に対する事業実績	予備設計委託に着手した。	3,000	3,000	当初	3,000	0	H25からの繰越
③達成状況	未完了			H25⇒26繰越			
④未完了・非着手の理由	予備設計について県の関係機関との協議に不測の時間を要したため。			補正			現年分　0
				流用・充当			
		平成27年度への繰越額（単位；千円）	1,746				

平成27年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	都市計画道路3・4・10号中沢北初富線整備事業（中沢）	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	3	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	道路河川整備課			
施策	321安全でゆとりある道路の整備	担当課室長	鎗田　淳			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	都市計画道路の計画変更に向けて関係機関と協議を行うとともに、予備設計、路線測量を行う。	③平成27年度に取組む改革・改善内容	都市計画道路の計画変更に向けて、関係機関との協議を積極的に進める。
②①に基づく取組み結果	都市計画道路の計画変更に向けて関係機関と協議を行うとともに、予備設計及び路線測量に着手した。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	都市計画道路3・4・10号線	意図（対象をどうするのか）	計画変更及び予備設計、測量を実施し、道路整備を図る。
②事務事業の概要	都市計画道路の計画変更を行い、一級河川大柏川第二調節池整備事業の進捗に合わせ、整備を図る。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	一級河川大柏川第二調節池整備事業及び地元要望に伴い都市計画道路の計画変更が必要となった。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成26年度の事業の成果	概略設計が完了し、予備設計及び路線測量に着手した。

②成果を表す指標

	指標名称	平成24年度	平成25年度	平成26年度	単位	算定根拠
i	都市計画道路整備延長	12,169	12,169	12,169	m	業務取得
ii	都市計画道路整備率	33	33	33	%	業務取得
iii	「道路の状況」不満足度	―	66.4	―	%	市民意識調査

③事務事業のコスト

	平成25年度決算	平成26年度決算	平成26年度決算（事業費）の主な内訳		平成27年度予算
			金額（千円）	内容	
事業費（千円）	0	6,456			75,532
国支出金（千円）			4,966	概略設計委託	
県支出金（千円）					
市債その他（千円）					
一般財源（千円）		6,456			75,532

Ⅳ　評価・検討

①課題（目的に対する現状など）	一級河川大柏川第二調節池整備事業との整備計画の整合を図ること。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	一級河川大柏川第二調節池整備事業の進捗状況と合わせ周辺の一体的な整備が必要である。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		平成26年度事業費の状況（単位；千円）					
①平成26年度の計画	予備設計、測量	計画事業費	予算額			決算額	
②計画に対する事業実績	予備設計及び路線測量に着手した。	20,000	25,500	当初	20,000	6,456	H25からの繰越 4,966
				H25⇒26繰越	5,500		
③達成状況	未完了			補正			現年分 1,490
④未完了・非着手の理由	都市計画道路の計画変更手続きに不測の時間を要したため。			流用・充当			
		平成27年度への繰越額（単位；千円）	13,032				